

文型探究特別プログラム

6月22日、29日の2日間に渡り、文型探究特別プログラムの第2タームをZoomで実施しました。

比較文化とグローバル化

今回のテーマは「比較文化」です。グローバル時代の昨今、異なる文化背景を持った人たちと交流する機会が今後ますます増えていくことが予想されます。身近な例を用いて、「日本の当たり前」と「世界の当たり前」の差異について学び、考察を深めました。

「謝る国日本」と「謝らない諸外国」

日本人はとにかくよく「謝る国民性」。しかし、めったに「謝らない」国もあります。

なぜ日本人は頻繁に謝罪をするのか。なぜ諸外国の人々はめったに謝らないのか。

「他人に水をかけてしまった」

「他人の持ち物を壊してしまった」

「親とケンカをしてしまった」

など身近な例から、謝罪することのメリット・デメリット、謝罪しないことのメリット・デメリットを考え、議論をしました。

日常生活から考える文化の違い

1回目の6月22日は、日常の小さな気づきをきっかけにして、日本と諸外国の文化の違いについて「謝罪」の観点から考察しました。

2回目の6月29日は、アジアの諸外国と日本の関係性を表したグラフを基に、グラフが変動する理由を考えたり、現在はどのような状況になっているか予測しました。



文型特別探究プログラムの第3タームのテーマは「経済」を予定しています。
実施予定日：7月20日（火）



グラフから読み解く日本とアジア諸国の関係性

アジア諸国（10か国）の人々が感じる「親日度」の変化をグラフから読み取り、その理由を分析し、クラスメイトと意見交換をしました。

また、日本人が抱く中国、韓国に対する「友好度」の推移についてのグラフを参考に、今後の日韓関係、日中関係がどのように変化をしていくか予測したり、両国との関係性にどのような問題点があるのか、またそれらをどのように解決していけばよいか議論をしました。

意見交換を通して見えること

自分が気づけなかった視点や考え方を他の生徒たちから学び、共有することで、生徒一人一人の視野がどんどん広がります。

友だちの意見を聞いて「なるほど！」と感じた瞬間、学びが生まれます。

グラフを読み取る力の育成

昨年度より導入された共通テストでは、グラフや表からデータを読み取り、その特徴や変化について問われる問題が出題されています。資料を上手に読み解く力を養うことはもちろんのこと、それらを自分の研究に役立てたり、将来の見通しを立てるために使うなど、資料やデータの「活用力」「応用力」を身につけてほしいと思います。



今後の文型探究活動について

日常生活でのささやかな疑問や関心事から探究するテーマを見つけたり、生徒自身の進路希望に直結するテーマを設定し、進路活動の一環として探究活動を深めていくなど、文型独自の活動を今後も継続していきます。

その中で単なる調べ学習に終始するのではなく、公に認められているデータや資料などを活用したり、1年次から養っている科学的根拠に基づいた視点も取り入れることで、研究内容に説得力を持たせていきたいと思っています。